

岡病防第22号
令和元年10月2日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予報第7号

令和元年10月2日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稲	トビイロウンカ	—	多
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや少
果 樹	カメムシ類	—	やや多
キュウリ	褐斑病	—	やや多
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— やや遅 — やや遅 — — — — — — —	並 並 並 並 並 やや多 並 並 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	並 並

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 9月19～20日の巡回調査(中南部地帯)では、発生圃場率は74.4%で平年(14.1%)より高かった。株当たり虫数は6.5頭で平年(1.2頭)より多かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和元年度植物防疫情報第4号(7月9日発表)、病虫害発生予察注意報第2号(8月21日発表)、病虫害発生予察注意報第3号(9月6日発表)、病虫害発生予察警報第1号(9月24日発表)参照。

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,556頭で平年(1,981頭)よりやや少なかった。

イ. 9月3～4日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は2.1%で平年(23.0%)より低かった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは155頭で平年(104.7頭)よりやや多く、クサギカメムシは10頭で平年(2.5頭)並、ツヤアオカメムシは145頭で平年(82.6頭)よりやや多かった。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月20日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(92.0%、過去10年のうち8年間は100%)並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によると発生圃場率は12.5%で、平年(27.0%)よりやや低かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(8.6%)よりやや低かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20、25日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は25.0%で平年(27.4%)並であった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.7%、過去10年のうち8年間は0%)並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年（7.8%、過去10年のうち7年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（1.8頭）よりやや少なかった。

イ. 9月19、20、25日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が100%で平年（34.4%）より高く、キャベツでは0%で平年（7.4%）よりやや低く、ハクサイでは0%で平年（2.9%）並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 **やや多**
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は1,193頭で平年（727頭）より多かった。

イ. 9月19、20、25日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が25%で平年（0%）より高く、キャベツでは0%で平年（2.5%）よりやや低く、ハクサイでは0%で平年（2.5%）よりやや低かった。

モザイク病は、ダイコンの発生圃場率が50.0%で平年（9.6%）より高く、ハクサイでは例年同様発生を認めなかった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1,556頭で平年（1,981頭）よりやや少なかった。

イ. 9月19、20、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並と

されており、発生をやや助長する条件である。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19、20、25日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(3.0頭)よりやや少なかった。

イ. 9月19、20、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月19日の巡回調査によると発生圃場率は0%で、平年(3.7%)並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(3.0頭)よりやや少なかった。

イ. 9月19日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

